

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102336
法人名	医療法人ビハール
事業所名	グループホーム ルンビニー
所在地	松山市安城寺町 5 3 0 番地 1
自己評価作成日	平成20年10月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年11月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>夜間入浴                  昼食支援(そうめん流し・焼き肉・たこ焼きなど目の前で一緒に作り一緒に食べる。又希望も聞き入れメニューを立てている)                  希望に添った支援(入浴した日に入る・買い物に行きたいときに行くなど)</p>
--

<p>家族会は、時には、レストランで開催することもあり、ご家族だけで話し合う時間を設けておられる。「運営推進会議への家族の参加」についても話し合ってもらい、ご家族が順番で出席する一年間の予定を決めていただいた。                  運営推進会議時、医師である法人代表者が講師で、認知症の勉強会も続けておられる。法人代表者は「認知症のことを子ども達にも理解してもらいたい」と、紙芝居「ぼくのおばあちゃん」を作成され、会議で紹介したり、地域の小学校に寄贈された。                  管理者は「若い人に認知症を理解してもらいたい」と認知症の人の思いを歌詞に込めて作詞され、プロのシンガーソングライターとコラボして「今から起きるキセキ」という題の歌のCDを、来年1月に全国販売する予定になっている。先駆けて、今年9月には着うた配信されている。                  入浴は個々の希望等も踏まえて、毎日入る方や2日に1回、3日に1回の方もおられる。利用者全員が夕食後に入浴することを希望するユニットもあり、職員の勤務体制も変えて支援されている。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ルンビニー

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)  
氏名 五藤 恵

評価完了日 22年 10月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>BS法を取り入れ職員全員の意見をとりまとめ、フロアごとの理念を作成し、掲示している。しかし利用者の入れ替わりやスタッフの入れ替わりもある為、見直しを目標にしていたが、まだ見直しが出来ていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所は、理念の一つに「利用者個々の思いを汲み取り、生活を豊かにする」と掲げ、力を入れて取り組んでおられる。職員は、利用者一人ひとりの表情の変化等「気付き」を大切にされて、思いの把握に努め、介護計画の他に「夢プラン」も作成して「生活を豊かにする」ことに向けて実践されている。</p>	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>近くにコンビニがあり、入居者と一緒に買い物に行き、なじみの関係づくりが築けている。又、散歩に出かけたときなどは地域の方とあいさつをし交流を図っている。また、同じ班の方との関わりもできて、花火大会や旅行など交流の場が増えてきた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所には、習字・折り紙・マッサージ等のボランティアの方の訪問があり、現役の音楽の先生も来られてピアノ演奏をしてくださっている。事業所の「花火大会」開催時には、チラシを作り近所の方にも配って案内され、盆踊りやカラオケ、屋台等を出して、地域の人やご家族、約40名程の参加があった。年末の餅つきには、近所の方やご家族も手伝ってくださっている。法人では、認知症を学ぶ「地域フォーラム」を定期的で開催されていて、7月のフォーラムでは、管理者も認知症についての事例を紹介された。系列グループホームと合同で出かけた「宮島日帰り旅行」には、近所の方も3名参加された。</p>	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>看護学生・日赤の看護師の実習を受け入れている。運営推進会議では、認知症についての勉強会をし、認知症の正しい知識を得てもらっている。地域フォーラムを開催し地域の方にも認知症について知ってもらっている。紙芝居を作成したり、歌を作成し認知症の理解に力を入れている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議のメンバーが地域との繋がりのきっかけ作りをして頂き、行事に参加出来ている。 メンバーに家族OBでありボランティアでもあるKさんに参加してもらい始め、良いアドバイスをいただいている。 他のグループホームの運営推進会議にも参加させてもらい地域との関わりを深める為の情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 会議は、偶数月の第4月曜日、13時30分からと決めて開催されている。事業所の行事や取り組み、又、利用者の現状を報告して、ご意見をうかがうようにされている。8月の会議では「事業所だよりの誕生者のコーナーを年齢がわかるようにしたら良いと思う」と意見をいただき、次号から反映されていた。又、外部評価結果の説明をされたり、消防署の方へ出席いただき、防火対策の話し合いや避難方法の演習を行い、アドバイスをいただいた。会議時、医師である法人代表者が講師で、認知症の勉強会も続けておられる。又、法人代表者は「認知症のことを子ども達にも理解してもらいたい」と、紙芝居「ぼくのおばあちゃん」を作成され、会議で紹介したり、地域の小学校に管理者と利用者1名が出席し、寄贈された。会議に地区の班長が出席して下さるようになり、回覧板で事業所の行事案内を回して下さることになり、地域の方達と事業所のかかわりが広がってきている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 何でも相談しやすく、旅行に関する情報もいただき、実現することが出来た。 事業所が相談をすると真剣に関わっていただき、良い方向へ導いていただいた。</p> <p>(外部評価) 法人では、定期的に認知症を学ぶ「地域フォーラム」を開催されており、運営推進会議時には、地域包括支援センターの担当者の方の協力を得て、地域の方達にも参加いただけるよう呼び掛けていただいた。運営推進会議時には、市の担当者の方から事業所の「家族会」の工夫点について質問があり、管理者が多くのご家族に参加していただくために工夫されていることを説明された。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人内の研修を行い正しく理解することが出来た。又、スタッフ全員拘束しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価) 日中は玄関に鍵をかけず、利用者は、自由に出入りされている。調査訪問時でも自分で外に出て、自由に庭を散歩されている様子が見られた。玄関にセンサーを付けておられ、職員は、チャイムの音と目配りで利用者を見守り、出入りを確認されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待とはどういう事なのか?!というところから、法人内の勉強会を開催した。それによってスタッフが理解する事が出来、注意を払い防止に努めている。 月一度行っているカンファレンスでも言葉の暴力について意見交換を行い、日頃の言動の振り返り、何気なく使っている言葉でも暴力と思われる事への気付きがあり、意識しながらケアを行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際利用されている入居者がいるも、スタッフ全員理解していない。法人内の勉強会を開催することで分かったようではあるが、理解とまでは難しい。その時々で説明しながら理解に繋げたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、解約時には、時間をかけて説明を行い、納得していただいている。不安や疑問に関してはその都度説明し理解していただいている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 自分の気持ちを表出できる利用者には外部へ表せる機会を設けるよう努力している。自分の思いを表出できない方に対しては、表情やしぐさから思いを汲み取るよう、努力している。 日頃からご家族との関わりを大切に人間関係作りに努めている。又、何でも言いやすい環境作りにも気を配っている。 家族会では大勢のご家族の参加があり、お一人ずつ意見を伝えてもらい、運営に繋げている。 (外部評価) ご家族の来訪時には、日々の介護記録を見させていただきながら、ご本人の普通の生活の様子を報告されている。ご家族への伝言事項はノートに記録して、職員で共有されている。管理者は、毎月、利用者個々の状況を手紙でご家族に知らせておられる。又、系列グループホームと合同で毎月「たより」を作成しておられ、行事や外出、日々の様子を写真も採り入れて伝えておられる。家族会は、時には、レストランで開催することもあり、ご家族だけで話し合う時間を設けておられる。「運営推進会議への家族の参加」についても話し合ってもらい、ご家族が順番で出席する一年間の予定を決めていただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 常に柔軟な対応ができるよう勤務の調整に努めてい る。職員の見意は大切に反映出来るよう努めてい る。	
			(外部評価) 「事業所のミニ勉強会」では、職員が順番にテーマを決めて 行っておられ、講師役を務めたり、「穴空き問題」を作ってテ ストに取り組みたりして、職員が「興味や関心を持って」勉 強できるようにすすめておられる。「法人内合同研修」は、職 員にアンケートを取り、年に4~5回行っておられる。テーマ によっては、外部の講師を招いたり、ご家族も一緒に勉強され ている。管理者は「若い人に認知症を理解してもらいたい」と 認知症の人の思いを歌詞に込めて作詞され、プロのシン ガーソングライターとコラボして「今から起きるキセキ」という題 の歌のCDを、来年1月に全国販売する予定になっている。 先駆けて、今年9月には着うた配信されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 代表者は、度々グループホーム訪れて、スタッフと 関わりを大切に、常に働きやすい環境作りをしてい る。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 職場内研修を2ヶ月に一度開催している。又、職場 外研修においても参加する機会を設けている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域フォーラムを開催することでネットワークづ くりとなっている。代表者のマジックショーを通して 今までと違った交流となっている。 運営推進会議に往き来することで交流が出来てい る。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 入居までに、ご本人、ご家族に会い、生活の様子を 伺っている。又、グループホームにも来ていただき、 話を聞く機会を作り、少しでも安心できる環境作りを している。また、スタッフ間での情報の共有もできて いる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)  入居に当たっての説明時にも、ご家族の悩みを受け止め、会話の中からも、ご家族の要望などを感じ取れるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)  初回面会時、ご家族の要望を聞き、本人の状況、状態を観察しながら対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)  介護する側、される側という区別はせずに、一つ屋根の下で暮らす家族のような雰囲気作りに努めている。家事などで分からない事は教わったり、助けてもらいながら、お互いに支え合う関係を作っている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)  ご家族が面会に来られた時は、状態を伝え、面会だけでなく、状態の変化があった場合にも連絡を取り合っている。 大きな意味で、入居者や家族もスタッフもルンビニーという家族と考え、入居者の方がこれまでどのような生活を送ってきたのか、しているのか情報を共有し、本人を支えている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)  入居者の方の民生委員の方がお習字を教えに来ていただき関わりを持っていただいている。 事前にいただいた情報だけでなく、本人や家族との会話で得られた馴染みの人や情報を活かし、特定の方以外の方に関しても今後関わられるよう支援したい。  (外部評価)  他県に住む娘さんが絵手紙の個展を開くことになり、ご本人の「行きたい」という気持ちを職員がご家族に伝え、ご家族と出かけられた。会場では、新聞やテレビの取材を受けられたそうである。又、介護度が重度の利用者から「夫のお墓参りがしたい」という希望があり、職員がご本人の「夢プラン」計画に採り入れ、息子さんとも相談しながら時間をかけて準備されて、男性職員2名・女性職員1名が同行して、リクライニング車椅子を担いでお墓参りの希望を実現された。ご本人はたいへん喜ばれたようである。事業所の農園は、元利用者のご家族が毎日のように来られて管理をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)  入居者同士のトラブルもあるが、入居者同士の間人関係を把握し、状態をみてトラブルになる前にスタッフが対応を行っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)  しばらくはお便り等送らせてもらっているか、継続はしていない。今後、暑中見舞い、年賀状を送ったり行事などにも声をかけていきたい。	
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)  希望の言える方に対しては「明日する」ではなく「今日する」という考えで、希望を実現できるように支援している。 希望の言えない方に対してもご家族から昔のエピソードを聞いたり生活の中での楽しみを把握し本人本意の生活に繋がられるよう努力している。  (外部評価) 職員が日々の会話や表情の変化から汲み取った利用者の思いは、事業所独自の介護記録の様式の「利用者の訴え・様子」欄に記録して、対応した職員の気付きの書き込みには赤色で波線を引く等、個々の思いを職員が共有し、介護計画につなげられるよう工夫されていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)  アセスメントシートを独自に作成し、ご家族と協力して記入することで、バックグラウンドの把握に努めている。又日頃の会話での情報を把握し情報シートに付け加えている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)  入居者一人ひとりのケアポイントを挙げ1日をどのように過ごしてもらうか考え支援している。スタッフが連携を持ち変化や気付きを日々の記録に残している。 充実した一日を過ごせるように、お菓子作りや買い物など、入居者さんの生活が充実できるように支援している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>立案シートで、本人や家族の要望を把握し、月1回のカンファレンスで本人の思いを中心にスタッフがアイデアや意見を出し合いケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、センター方式の5つの視点に沿って「立案シート」を作成し、職員で話し合い、利用者個々の担当者が作成されている。ご家族への説明や報告、要望等を聞き取ることは、個々の担当者が行っておられ「ご家族の思いをプランに活かしたい」との思いで取り組んでおられる。管理者は「今後は利用者が「感じること」についても「できる・できないをアセスメントして、さらに深く思いを汲み取りプランに活かしたい」と話しておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアプラン、ケアポイントを主とした個別記録の記入方法を実践している。 記録の内容は、本人の言葉が主となっている。又、スタッフのこえかけも「」で記入し、それをしてどのようになったか分かりやすく、次につながる記録になっている。気になる点は赤の波線を引き、評価、次のプランに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>医療処置が必要な時、病院と連携し、処置を受けながら、生活が継続出来るように努めている。またデイサービスが隣にある為、行事などがある場合、参加している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域のボランティアの方が来ていただき入居者と洗濯物をたんだり洗い物をしたりと関わりを持ってもらっている。又、畑のボランティアの方が野菜作りをして下さり収穫の喜びを得る事が出来ている。 近所の方が花を届けに来てくださり、入居者さんとの会話も持て良い関係が築けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医がいる場合は、家族の希望も聞きなが ら選択出来るようにしている。又、一つの病院だけ でなく連携病院や専門病院を受診してもらえよう支 援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご本人ご家族の希望で、ほとんどの利用者は、母体医 療機関の往診を受けておられる。協力医療機関以外 のかかりつけ医の受診は、ご家族が同行されている。歯 科は、訪問診療を利用されている。</p>	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>1階スタッフとして看護師はいないが、2階の看護スタッ フがフロアに来て状態を把握し、何かあると情報を伝え連携を とっている。 介護職員と看 護職員が気軽に相談できる環境で変化や気づきを共有し、 日常生活の健康管理を行い、医療が必要な場合は状態に 応じた医療を受けられるよう支援している。</p>	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。また は、そうした場合に備えて病院関係者との関 係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>主治医と相談しながら、早期退院に向けて話し合 いを持ち、少しでも早い退院が出来るようにしている。</p>	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>家族面談を行い、本人、ご家族の要望を聞いている。Drとスタッ フが協力し、安心して重度化や終末期を迎えられるよう取り組ん でいる。又、スタッフ全員で方針を共有し一つのチームとして支援を 行っている。 小さな変化であっても、状態が変わった場合には家族面談を行い、 今後起こり得ること、出来ることと出来ないことを伝え、理解して いただき、ご家族に選択していただき方針を定めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在、利用者全員のご家族が事業所での看取りを希望され ており、他の病院に入院しても、ご家族からは「最期はホーム で見てほしい」と希望があり、ホームに戻って最期を迎える利 用者が多いようだ。事業所で初めて看取り支援をされた利用 者の方が、入浴がお好きだったことがきっかけで、ご家族の 希望もお聞きしながら「湯灌」を行うことを始められた。管理者 は「看取りは生活の延長上にあるもの」との考えのもと支援に 取り組んでおられ、ご本人の思いを大切に、終末期を迎 えた利用者もベッドを移動して、居間で皆と一緒に過ごす時 間を作ったり、他の利用者が声を掛けてくれたり、手を握って くれたりとふれ合いのある中で居られるような支援に努めてお られる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事業所でAED講習会を実施した。隣の施設にAED設置予定の為、再度講習会に参加予定。今後は救急法の講習会を予定している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の方々にも参加していただき、義務づけられている年2回の消防訓練以外にも自主的に緊急連絡装置を使った訓練を行っている。 運営推進会議に地域の消防隊員に参加していただき、火災についての勉強会を行うと共に避難方法の実技指導を受けた。 (外部評価) 今春、夜間を想定した避難訓練が行われており、地域の方にも参加していただき、事業所の建物の構造や利用者の状態を知っていただいた。又、職員は訓練後の検討会で、職員から「避難した利用者が分かるように、避難誘導時に居室の名札を外してはどうか」等の意見も出された。又、運営推進会議に消防署の方に出席していただき、職員一人で利用者をベッドから降ろす方法や玄関まで避難させる方法を指導していただき、早速試してみられたようだ。近所の方達も含めた「緊急連絡網」を作成されており、運営推進会議時には、地域の方のお宅で火災があった際にはホームも協力することを話された。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その時の状況や状態を見極めながら自分たちの人生の先輩として言葉かけを行っている。が、慣れによる名前の呼び方や対応には注意して行きたい。 (外部評価) 管理者は、利用者を「ちゃん付け」で呼ばないこと、トイレへの声かけは、耳元で行うこと等を職員に話しておられる。利用者の中には、これまでの馴染みの呼ばれ方等を踏まえて、ご家族とも相談をして「おばちゃん」と呼ぶようにされている方もいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) その人に合わせた意志の表出方法を汲み取り、自己決定するのが難しい人には、選択出来る声かけ、場面作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースを尊重しながらも、生活のリズムを作れるように支援している。一人ひとりのペースで生活できているかは不明であるが、声かけなどは選択できる声かけにし、本人の希望を引き出せるようにし、その人らしく生活に彩りを付けられるように支援していきたい。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) お化粧が好きな方にはご家族の協力を頂き化粧道具を持参してもらいお化粧していただいている。その日着る洋服も本人に選んでもらっている。車椅子の方にも見えるよう、洗面台に鏡を付けている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 月に数回であるが、「たこ焼き」「焼き肉」「手巻き寿司」「流しそうめん」など調理したものを出すのではなく、目の前で一緒に作りながら食事している。調理の音や匂いを感じられ、また 自分の好みにできる為、とても好評である。	
			(外部評価) 献立は、利用者の希望を採り入れて、調理専門の職員が立てて、食事作りをされている。毎食、汁物を付けて、バナナやヨーグルトを採り入れて便秘予防にも気を付けておられる。利用者は、職員と一緒に野菜の皮むき等の下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳、食器洗い等をされている。さらに、事業所は月に数回「みんなで料理」する日を作って、うどんは粉から、ぎょうざは皮作りから、職員と利用者が一緒に楽しまれている。100歳を超える利用者も、包丁で野菜を切ったり、又、パン生地を丸めたり、盛り付け等をしてくださっている。敬老の日は、寿司職人を招き、ご家族も一緒に食事され、利用者は「このお寿司は、本物じゃわい」と喜ばれたようである。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分量が少ない人に対しては記録をつけ、何が本人にとって好きなのか？嫌いなのか？考えながら支援している。(本人の負担とならないような支援)又、食べられる量に合わせて、足りない分は捕食で補っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い清潔を保っている。義歯の消毒もしている。 自分でされる方にも声かけし、磨き残しなど状態に応じて支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来るだけ排泄での失敗感をなくす為に、排泄リズムを把握し、さりげない声かけ、誘導にて対応している。又、パンツだけがいいと考えるのではなく、その人の負担感を和らげる為に、今使用しているパッド等を当たり前と思わず、その時その時の状態に合わせての商品選びにも力を入れている。 (外部評価) 利用者個々の排泄パターンに沿ってトイレ誘導を行い、紙パンツから布パンツにパッド併用、布パンツのみへと順次の移行を目指して支援をされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の原因を探りその方の状態に合わせ、運動を多く取り入れたり食物繊維を多く摂取したりと支援している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) グループホームに入居しても、今までの生活が継続できるように入浴の時間や曜日を選択できるようにしている。昨年の自己評価では、『本人が希望したにもかかわらず「今日は入る日じゃないから」と断るスタッフがいた』が、現在は、希望に合わせ断ることなく対応出来ている。 (外部評価) 入浴は個々の希望等も踏まえて、毎日入る方や2日に1回、3日に1回の方もおられる。利用者全員が夕食後に入浴することを希望するユニットもあり、職員の勤務体制も変えて支援されている。介護度が重度の方が多いユニットは、職員2名でネットを使用してご本人が浴槽で温まることができるよう支援をされたり、ストレッチャーを使用されることもある。入浴を嫌がる利用者には、声かけ等を工夫されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間不眠だった方は、朝ゆっくり休んでもらったり、昼寝の時間を考えたり、なぜ不眠だったのか職員全体で話し合ったりし、気持ちよく休んでもらえる環境作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人1人が服用している薬の作用、副作用を表にしており、いつでも確認できる状況にしているが、スタッフ全員が副作用について理解できているかは不明である。今後勉強会を行い、副作用についての理解を深めたい。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方の楽しみをケアプランに挙げ実施している。又、個別的ストレスの発散も考え、グループホームでの生活が充実した物になるように支援している。 デイサービスの協力を得て絵手紙やカラオケなどにも参加し、楽しみの一つとなっている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 「旅行に行きたい」という入居者からの要望があり、地域の方、ご家族、ボランティアの方々に声かけをし、『宮島日帰りツアー』実現した。	
			(外部評価) お好きな時に近くのコンビニに出かけて、好みのお菓子や雑誌を購入されている利用者もあり、コンビニの店員の方もご本人のことをよく知ってくださっており、連絡をくださることもある。調査訪問日には、3名の利用者の方が近くの系列デイサービスで日本舞踊を見て楽しんで帰って来られた。敷地内にある事業所の農園で野菜の収穫をされたり、利用者の希望に沿って、季節のお花を見に出かけたり、芝居の見物や外食、喫茶店でお茶を楽しんだり、洋服の買い物等に出かけておられる。	さらに、日頃外に出にくいような状態にある方でも、体調や気候等も見ながら、外気に触れるような機会を作ってはどうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人希望の方に対してはご家族と相談し了解のもと、現金を持っている。今まで当たり前を持っていたお金がないという不安も考え、希望のある方に対しては出来るだけ持てるよう支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 海外へ手紙を出す入居者がいらっしゃる為、一緒に郵便局へ行き手紙を出したり国内の手紙を出す時はコンビニへも行く支援を行っている。家族の心配をしている入居者には、スタッフから声をかけ、電話をかける支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>全てをなくすのではなく、入居者にとって何が必要なのか？必要でないのか考え、あまり施設的にならないように注意している。しかし、見えるところに理念や運営規程や重要事項説明書などの掲示が必要な為家庭的な雰囲気からすると残念な面もある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間のテレビの前や壁際、廊下にソファが設置されており、調査訪問時にも個々でお好きな場所に腰掛けて過ごしておられた。居間の壁には、利用者の娘さんから届いた絵手紙の数々を配したすだれや、帯をアレンジしたタペストリーが飾られていた。事業所開設以来の写真アルバムにまとめておられ、廊下の書棚に立ててあり、側のソファに座って自由に見る事ができるようになっている。加湿器を廊下に置き、湿度管理もされていた。居間の窓は大きく造ってあり、外の田園風景で季節の移り変わりを感じることができる。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>いろいろな所にソファがあり、入居者同士くつろげたり、個別の空間を持てるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居前の面談にて、なじみの家具や小物を持ってきていただくように説明しているが、入居者さんによっては馴染みのものが少ない方もいらっしゃる為、今後ご家族と相談しその人らしく居心地良く過ごせる居室作りをしていきたい。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お菓子の包装紙で作った色鮮やかな折紙作品や、美人芸人の切り抜きを貼っておられる利用者もあつた。テレビや使い慣れた椅子を持ち込まれている利用者もいる。調査訪問時は、各居室の出窓に布団を干しておられ、窓の外側には、日よけ用すだれを掛けている居室もあつた。</p>	管理者は、介護度が重度の方の居室はベッドを動かしたりと「職員の動きやすさを考えた居室環境になりがち」と話しておられた。事業所自身が気付かれたことをきっかけにして、この機会に利用者の立場に立って「利用者ご本人が居心地よく過ごせる居室環境」について点検したり、話し合ってみてはどうだろうか。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>廊下には手すりを付け、居室やトイレなどには入居者の目線で、分かりやすい目印をつけている。 混乱や失敗がないように、場所や高さなど調節して、さりげない対応が出来ている。</p>	